

「表現未満」
プロジェクト

あなたのまちのスターがみえる! スタ★タ★ン!! 全国ツアー2021

福島
新潟
長野
静岡
愛媛
宮崎
長崎
沖縄

記録集



スタ★タ★ン!!全国ツアー2021 記録集

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ



もくじ

はじめに

2 スタ☆タン!! Z 全国ツアー2021とは

8 静岡 浜松NPO法人クリエイティブサポートレッツ さまざまな音楽の祭典を推し☆たん!!

14 沖縄 那覇市若狭公民館 スタ☆タン!! with 若狭公民館

16 長崎 NPO法人BaRaKa スタ☆タン!! 映画祭inGOTO

18 福島 そこをなんとか スタ☆タン!! Z feat.そこをなんとかVOL.2

20 愛媛 松山ブンカ・ラボ「スタ☆タン!!」ミュージカル未満。松宮は見た!

22 新潟 新潟県オール・ブリュット・サポート・センターNASC スタ☆タン!! Z Across the Chaos

24 宮崎 アーツカウンシルみやざき スタ☆タン!! 宮崎(じゃーぶっ) new world order

26 長野 ぶっとびアート 全力! みよたスタ☆タン!!

28 スタ☆タン!! 世界進出?!

30 寄稿文 佐々木誠(映画監督)

36 エッセイ

40 開催概要

41 奥付け

42 スタ☆タナーの紹介



はじめに

うちの家族のお決まりの鼻歌、毎日の飽くなき石遊び、あの人の一癖あるけどアツいカラオケ…。日常の中には、ささいであっても、誰かにとっては大切な、もしくはあなただが「なんか気になるな」という表現があるんじゃないでしょうか。そんな表現にスポットライトを当て、真剣に見つめて、感じたことを言葉にする場を作ろう！それが「スタ☆タン!!」Zです。

2016年、浜松にてオーデイション型音楽イベント「〜雑多な音楽の祭典〜スタ☆タン!!」は始まりました。わたしたち認定NPO法人クリエイティブサポーターレッツの運営する福祉施設内でスタッフと利用者が過ごし方の一つとして行っている音楽に端を発し、障害のあるなしに限らず、日常の中の音楽から音楽とも言い切れぬくだらないものまでを舞台上げ、真剣に審査してきました。時にアートセンター、時に大きなコンサートホールで。全国から集まった出演者と審査員、そして観客が目の前にある表現を体感する場を共に作り上げてきました。

しかし、日本中、いや世界中の様々な地域でまだ見ぬ音楽、または音楽とも言えぬ表現を日常の中で大事にしている人々がいるはず…。昨年度、コロナ禍で日常を振り返ることが増えた中、そんな想いから「スタ☆タン!!」Zプロジェクトは生まれました。誰でもどこでもスタ☆タン!!ができるスターターキットを開発・配布し、全国の家庭や学校で小さいけれども様々な日常の表現との出会い直しが起こりました。また、全国各地の文化・芸術活動を主とした団体と「スタ☆タン!! パートナー」を結び、その団体、地域独自のスタ☆タン!!のプロデュースをお願いしました。スタ☆タン!!の舞台は浜松を飛び出して、その形を様々変容させながら全国津々浦々に広がりました。

そして今回は、「スタ☆タン!! Z全国ツアー2021」と題して、北は福島から南は沖縄まで全国8カ所のパートナーとともにスタ☆タン!!を開催しました。そのどれもが地域性はもとより形式もまるで異なる姿をしており、スタ☆タン!!がもはや「日常の表現とその批評」を残しつつも固有の形を脱し、多様な表現の場の可能性がさらに広がっていくのを感じます。

皆さんもぜひ全国スタ☆タン!!の旅をしながら「あなたのスタ☆タン!!」について想いを馳せてみてください。

スタ☆タン!!キャンペーンガール

認定NPO法人クリエイティブサポーターレッツスタッフ

高木路子





撮影口ケ地：浜名湖、舞阪漁港

撮影：吉田朝麻

スタ☆タン!! Z 全国ツアー 2021 開催!

スタ☆タン!! Zでは、全国の多種多様な活動を行なっている団体が「スタ☆タン!! パートナー」として、全国各地で独自のスタ☆タン!!を企画・開催しました。
北は福島県から南は沖縄まで、全国8箇所で開催されたスタ☆タン!!は、それぞれの地域や分野、関わる人々によって全く違った形をしています。しかし、そこには共通して、日常の中の些細だけれど大切な表現の光を見ることができました。



新潟
新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC
スタ☆タン!! Z - Across the Chaos -



長崎
NPO 法人 BaRaKa
スタ☆タン!! 映画祭 in GOTO



沖縄
那覇市 若狭公民館
スタ☆タン!! with 若狭公民館



福島
そこをなんとか
スタ☆タン!! Z feat. そこをなんとか VOL.2



長野
ぶっとびアート
全力! みよたスタ☆タン!!



静岡
浜松 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ
～雑多な音楽の祭典～推し☆たん!!



宮崎
アーツカウンシルみやざき
スタ☆タン!! 宮崎 # (しゃーぶっ)
～ new world order ～



愛媛
松山ブンカ・ラボ
松山ブンカ・ラボ「スタ☆タン!!」ミュージカル未満。松宮は見た!



浜松 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ 〜雑多な音楽の祭典〜推し☆たん!!

「推し☆たん!!」とは、誰かの「推し」の表現を、「この人のこの行為がグッとくる」というアツい想いごと舞台上に上げ觀賞するスタ☆タン!!のことである。

これまでレッツが行ってきたオーディション型音楽イベント「雑多な音楽の祭典」スタ☆タン!!を運営する中で、私は「その表現を舞台にあげる人」の存在がとても気になっていた。福祉施設の職員が利用者を、親が子どもを、誰かが気になる人を。その理由は今までステージ上ではあまり語られることがなく、今回はそれを「推し」と題して、存分に想いを聞こうと思ひ立った。その推薦人は、スタ☆タン!!を知る浜松周辺で愉快な活動をしている6名の方々にお願いした。

開幕早々衝撃のアルス・ノヴァメンバーとスタッフによる完熟パフォーマンスから始まり(なんとメンバーが踊り終わって全力を出し切るあまり倒れてしまった!)、堂々たる発声での自作の小説の朗読&不思議な小劇。どこか抜けているけれどその荒さにこそ魂を感じる中島みゆき。毎日見て辟易としていたけれどステージ上で見るのがちよよい距離という気づきを得た表現。鬼気迫る眼光で叩く太鼓と超即興のカオスセッション。淡々と客席から紙を奪っていくが、むしろもっと奪われたい!と思わせるマイペースな姿とそれを追うスタッフのコントラスト。蘇るあの頃のレコード屋でのアツい友情の夜…。誰かにとつての身近な人の姿が、会場で様々な輝きを放っていた。

① 推薦人…スタッフ・フキコ 出演…南国のフルーツ

【推しコメント】

汗と熱気の「魅せる」ダンス、時に求愛、時に静寂。そこへ飛んでくる叱咤激励…。障害福祉事業所アルスノヴァに通うカワちゃん&スタッフおわりさん、そして新メンバーのドラマー・キシケン子によるジュシー3人組パフォーマンスユニット「南国のフルーツ」。これのすごいところは、進るパフォーマンスもさることながら、どこで発表するか決まっていなくても日々やっているところなんです。しかし秘めてはおらず、その時々で他のメンバーやスタッフに向けての熱い想いを届けるべくやっています。不思議でいつも魅了されています。



そして今回、審査員の西川さんと成島さんには、表現だけでなく、推薦人たちが語る推しへの想いも含めて審査していただいた。未知との遭遇の連続に衝撃を受けたつも、それぞれの専門的な視点から出る真剣な言葉の数々にも感銘を受けた。

また、「推し」を語る推薦人のアツい言葉を通して見る表現は、個人的で些細だけれど素晴らしい、新たなスタ☆タン!!の姿だった。

普段見慣れたはずの人のまだ見ぬ表現、意外な一面、そして「推し」へのアツい想い。それに対する審査員の独自の視点や言葉で見えてくる新しい姿。その交差するところを、観客だけでなく、松菱跡地に出現した交差点を行き交う様々な人々が目撃していた。ここで生まれたものたちは、それぞれの日常に続いている。



日時 | 2021年11月6日(土) 14:00~17:00

会場 | 松菱百貨店跡地「オン・ライン・クロスロード」

② 推薦人…すずやカメラ 出演…asabaty you (アサバチヨウ)

【推しコメント】

智に働けば角かどが立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。けど住まなくちゃならない。好きなことは好きだ。一生懸命好きなことをする。余分なぜい肉はいらない。僕は僕の好きなことをする。そんな彼が僕は好きです。不器用だけれどまっすぐ進む。嘔むほど味の出る彼です。asabaty you さんの自作詩朗読「私は世界でたった1匹」です。



③ 推薦人：すずやカメラ 出演：ユキヒロロック

【推しコメント】
 智に働けば角がどが立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。けど住まなくちゃならない。生き続けるんだ！。歌が好きだ。歌に人生支えられても来た。普段裏方的な位置で何かをプロデュースすることが多いイメージの彼ですけど、すずやとしても一回こういう場所でのこんな風に主人公として見てみたい、ユキヒロロックとしての彼を見られるのがとても楽しみです。



④ 推薦人：レッツ理事長・久保田翠 出演：アルスノヴァ2階の愉快的仲間たち

【推しコメント】
 浜松駅から10分くらい歩いたところにたけし文化センター連尺町という場所があり、その2階の音楽部屋で雑多なパフォーマンスを一日中やっています。スタッフの佐藤くんはもう10年くらいレッツに勤めていて、(息子の)たけしと佐藤くんがいたからその音楽部屋ができました。誰かに見せるわけでもなく、毎日、ずーっとやっている。「たまには何か見せたら？」って言うんですけど、絶対に見せません。でも私はこれがすごく好きで、ちよっと今日はやって、お願ひしました。できないかもしれないと思ってた。音楽をやっている側でゆうじくんが座ったり、たけしがいたり。要するにみんないつも爆音の中各々過ごして、寝てたりもします。これをうちには「支援」と呼んでいるけれど、とても豊かな時間だなと思っています。いつも羨ましく思っています。



⑤ 推薦人&出演：村木多津男

【推しコメント】
 毎日アルスノヴァにやってくるダジャレおじさんこと村木さんのダジャレ、小説、本の紹介、宣伝：こちらの反応がどうあれ止まらないアツいトーク。
 (以下自己紹介) 村木多津男 笑っていいとも！ 出演4回。日本将棋連盟支部対抗戦東日本大会団体戦3位メンバーにより四段免状。歴史語呂合わせ、静岡新聞20回連載。よしもと浜松発掘オーディション：よしもと賞 テレビ番組で自作の詩の朗読。



⑥ 推薦人：協働学舎大橋 出演：NOBU&STEP

【推しコメント】
 「こだわり」というと、「何か一つの物事に熱中するさま」をイメージするかも知れない。だが違う。僕の推す天才「NOBUさん」は何かひとつのことに熱中するのではない。(NOBUさんは私たちグループホームすてっぷの利用者さん)
 木材、スチール、紙、ボトル、粘土、食べ物、飲み物、ガム、電器、風、日光。およそこの世のすべてにこだわる。すべてだ。そして24時間365日だ。人のものだろうと、どんな状況だろうと。ずっとこだわっている。私たちはどれだけの重要書類を折られ、仕事中に電気を消され、物が消失しただらう。とにかくこだわる。
 いや。よく考えたら「すべて」ではない。金、地位、名誉、人の目にとる映るかなどということにはまったくこだわらないようにも見える。まったくもって価値観の大転換だ。俗世で大衆が追い求めるものには興味を示さず、人が不要とするものを熱心に追い求める。
 僕たち職員はそんなNOBUさんに様々なものを「奪われ」ながらも、なぜだかちよっと「愛してしまう」。私たちグループホームの日常を再現できたらと思っている。上演タイトルは「奪い愛」だ。



⑦ 推薦人…タテシヒロシ 出演…アルバートレコード

【推しコメント】

僕が「推す」のは、僕の人生の中で初めて『Oの関係性』から築いてきた、年齢・性別・国籍を問わないただの友人関係ができた中古レコード屋『アルバートレコード』です。今はないレコード屋でみんな散り散りになりましたが、そのレコード屋の店主と閉店後にみんなで狂ったようにやっていたセッションを行います。その昔25年ほど前に、高林にアルバートレコードという中古レコード屋がありました。フリージャズや怪しいプログレのレコードやCDは平置きするけど売れ筋の曲は目立たないように置いておく…、資本主義にふんどし一枚で喧嘩を売りにいく、ドンキホーテのようなレコード屋でした。

そこで僕は人生の中で初めて会社や学校ではない『Oの関係性』からの友達がたくさんできました。

- ・ アルバートレコードの店主、渥美さん夫妻
- ・ バッドブレインズ成岡
- ・ めんどくさいバックパッカーかみやさん
- ・ クラシックとアニソンコレクターほりさん
- ・ みんなのアイドル。服屋の店長、ホリ
- ・ 彼女にミニスカを履かせるのが趣味のブラッド
- ・ エピソードがヤバくてここで書けない井手さん

今でも連絡を取り合う友人から、今何やっているのかわからない友人もいるけど、もしかしたら会っても気がつかないかもしれないけど、ほとんどお客さんの来ないレコード屋でみんな音楽の

審査委員総評

・ 成島洋子…公益財団法人静岡県舞台芸術センター

(SPAC) 芸術局長

・ 西川昌宏…鴨江ワンダーカンマー館長

・ 高木路子…スタ☆タン！ーキャンペーンガール

路子…蓋を開けてみたら、レッツの見知った顔だなというラインナップになってしまい、どうしようかなと思っていました。推薦人が紹介した推し達は、あれ？この人会ったことがあると思いきや、そんな顔は知らなかったとか、この人ってこういう表現するんだとか、知らない一面が見れました。私がスタ☆タン!!でやりたかった「日常の身近な人が色んな面や表現を持っている！」を体感することが出来て、とても面白かったです。

西川…色々と今日、丸々フルセット拝見させていただきました。本当に幅広い表現があるんだなと、率直に楽しかったです。色んな人が居れば、色んな音や言葉、動きが出てくるもんだ。本当に一日飽きずに観ることが出来ました。偉そうなのは何も言えませんが、色々な感想を持たせていただきました。ありがとうございました。

成島…3時間に及ぶパフォーマンス、本当に皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。私は住まいも職場も静岡市です。浜松は部分的に知っていることはあっても、知らないことの方が多い場所です。今日この企画に参加させていただいて、浜松にはすごくたくさんの面白い人、変な人がたくさん居るんだなと思えました。変な人、誉め言葉です(笑)。レッツを中心に、それを見する「目」を育てることが出来ているなと感じました。これからもそういう目を持つ方々と一緒に、私たちが静岡岡を見ていきたいなと思いました。



趣味が違うのに深夜までべらべら喋って、下手なセッションをしてゲラゲラ笑って、年齢も国籍も違うのに、それは僕の人生にとってかけがえない時間で、間違いなく友達との時間でした。先日、お互いに歳をとってだいぶ薄くなってきたアルバレコードの店主の渥美さん夫妻とあの時の深夜の馬鹿騒ぎを再現するよなセッションしたら笑いが止まらなく…。

ああ、こういうのって誰にでもある『グツとくる』瞬間だなって、そう思ったわけです。他の人がみてどう思うかはこの際置いて、そんな色々ひくくめるめの事象を、今再びスタ☆タン!!として、あの時の深夜の馬鹿騒ぎを再現するよなセッションをできたらと思います。

沖縄 那覇市若狭公民館 スタ☆タン!! with 若狭公民館

スタ☆タン!!Zをやっているって思うこと。それはスタ☆タン!!の「たね」ってあるということだ。日常の様々な場面に、人それぞれ些細だけれど気になるグッとくるものがある。それに気づき、思いを巡らせることからスタ☆タン!!が始まっていく。

沖縄は那覇市にある若狭公民館。ここでは、どこでもパラソルがあればそこが創造的な活動をする公民館の場となるという「パーラー公民館」など、地域住民を主体としたユニークな活動を多く行っている。それを「プログラムのたね」としてウェブなどで発信している。その活動の一つに「ポストポスト部」という、地域に設置したポストに手紙、作品、アイデアなど様々なものを投函することで小さな変化を楽しみ味わうことを目的にした部活がある。今回は、その中でスタ☆タン!!が開催された。直接体験は叶わなかったが、動画や活動報告から紐解く。

今回のスタ☆タン!!は2回行われた。1回目は、スターが見えるようになる「スタ☆タン!!メガネ」をかけて公園に繰り出した。上裸で走るおじさんを見て誰かがボツリと「あ、スター発見!」と呟いたところをきっかけに、どんどん視点が変わっていき様々なものが発見されていく様が印象的だった。メガネをかけることで、電柱上りの達人、どこでもリラックスできる猫など自分なりのスターを続々発見する部員たち。いつもの見慣れた場所、人々もひとたび意識することで違う輝きを放ってくる。そしてこの日は、最終的に面白そうな階段を発見し、それを使ったゲームが発明されていた。「小さな変化を楽しみ味わう」ポスト部ならではの発展の

仕方なのだろう。

2回目は、トレッドマークである大きなPちゃんポストと、掲示板を持って公園へ。それらがあることで、公園で遊ぶ子どもたちなども集まってきてメガネをかけたりと、スタ☆タン!!を知らない人たちが気軽に参加しやすくなったようだ。お絵かき名人が見つかったり、ただの木がもじやもじのおじさんに、クレヨンがキラリンに見えるようになったり。「スタ☆タン!!メガネ」はスタ☆タン!!Zでは視点を「心のメガネ」なのだが、今回のように物理的にかけることで生まれる変化もあるのだと感じた。スタ☆タン!!でのパフォーマーにとつての「舞台に立つ」こともそうだが、見る側のメガネが身体的にスイッチが切り替わる装置となっていることも面白い。

また、スタ☆タン!!をやる身として、様々な人を巻き込んでいく場や関わり方の作り方もとても勉強になった。パーラー公民館はパラソルが作り出す「場」を起点に、そこに多種多様な活動が持ち込まれ、人が集い発展していく。ポストポスト部でのスタ☆タン!!も同じく、ポストや掲示板を起点として場が生まれ、それが可動式でも展開できるゆえに、日常に平行する多様な活動や文脈を巻き込み、多くの人の「つどい・まなび・むすび」を生んでいくのではないだろうか。



日時 | 2021年10月15日(金)、10月27日(水)
会場 | 若狭公民館
参加者 | ポストポスト部員、公園にいた人々



若狭公民館とは、那覇市沿岸部にある、NPO法人地域サポートわかさが運営する公民館。「アート×社会教育」をテーマに、ちょっとアーティスティックでちょっとユニークな社会教育活動に取り組んでいる。

長崎 NPO法人 BaRaKa スタ☆タン!! 映画祭 in GOTO

「スタ☆タン!! 映画祭 in GOTO」とは、NPO法人 BaRaKa 代表の片岡優子さんが、ふるさと五島で静かに光を発している人やや事象などを独断と偏見で映像作品に収め、五島内外のひとたちとわいわい言い合って五島の魅力を再発見しよう、というスタ☆タン!! だ。

事前に撮影・編集された6本の動画を、3名の審査員とお客さん
と鑑賞し、感想を言い合った。

まず最初に映し出されたのは『幕開け』と題されたオープニング映像。五島福江港に到着したフェリー、車両甲板乗降口のゲートがゆっくりと開いていく。車を乗船させる際に、一番最後に乗って先頭になると見られる光景だ。片岡さんお気に入りの瞬間だという。片岡さんがぐっとくる瞬間を集めた今回のスタ☆タン!! にふさわしいオープニングから、いよいよ本編が始まる。

某ドキュメンタリー番組風の音楽と共に始まった『鳥の目を持つ原塚祥吾』は、頭で想像した町を鳥瞰図に描く青年が登場。審査員から、「もともと作品が評価を受けているこの青年の映像は、スタ☆タン!! の趣旨と合っているのか」という疑問が投げかけられ、波乱を予感させる幕開けとなった。

2番目に上映された『餅まき』は、新築の家を建てる際に、集まった人々へ餅をまく行事を撮影したものだ。スタ☆タン!! 当日のお客さんの中には、この餅まきの関係者の方が多く、「餅まきを初めて見た」という審査員からの質問に、しっかりと五島弁で返答。「大体は聞き取れなかった」と、異文化交流ならではの光景も見られた。

玉之浦という地区にある私設博物館を追った『中村博民俗博物館』。中村さんが自ら建てたという小屋を覗くと、昔使っていた大八車や漁船、孫の写真、5人の子供たちが使っていたラケット、水森かおりコレクションなど様々な展示を見ることが出来る。毎年、三が日にボランティアで『獅子舞』をする男性を写した作品では、獅子舞を怖がり延々と泣き続ける子供に会場が笑いに包まれ、舐め回すように(祈りを込めて) 参拝客の体を噛む獅子舞の姿にエロスを感じた。

『山口酒店の夜』は、酒屋の一角を飲酒スペースとして立ち飲みする『角打ち』の様子を切り取ったもの。五島弁で各々が勝手に喋り、カラオケを楽しみ、笑う姿を見てみると、五島に住む人たちの人生がスクリーンから滲み出てくるようだった。

また、別々の視点を持った審査員3人のバランスの取れた感想の数々は、映像の内容をより深掘りした。

そして、なにより会場に来てくださった五島の人たちの五島弁での補足、温かい雰囲気がある今回のスタ☆タン!! を一味違うものにしたように思う。

映像を通して様々な「観光ガイドに載らない五島」の一面を垣間見ることができた「スタ☆タン!! 映画祭 in GOTO」。こうした人々の素晴らしい営みは、きっとどこにでもあるはずだと思う。(レッツスタッフ・渡邊亮介)



日時 | 2022年1月15日(土)19:00 ~ 21:00

場所 | Slow Cafe たゆたう。

司会 |

・片岡優子 NPO 法人 BaRaKa

審査員 |

・久保田翠 認定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ 理事長・静岡

・佐々木誠 映画監督・映像ディレクター・東京

・中村 健児 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 あいばな・五島

映像協力 |

・牧園憲二 映像作家

1. 幕開け (オープニング)
2. 鳥の目を持つ原塚祥吾
3. 餅まき
4. 中村博民俗博物館
5. 獅子舞
6. 山口酒店の夜

出演



NPO 法人 BaRaKa (バラカ) とは、長崎県五島市で活動する NPO 法人。自然が好きで、昔ながらの伝統的な暮らしを楽しむ人の集まり。アール・ブリュット、伝統芸能の魅力発信にも力をいれており、五島の自然と文化を再発見する『五島 海のシルクロード芸術祭』を開催している。

福島 そこをなんとか

スタ☆タン!! Z feat. そこをなんとか VOL.2



いわき市の地域包括メディア「igoku」を手がけるデザインチーム「そこをなんとか」が送るスタ☆タン!!は、動画で投稿された日常の中の誰かのアツい表現を、四人の審査員が様々な角度から鑑賞し語るオンライン配信番組となっている。些細な表現、意味不明に思われる叫びや、思わず口ずさんでしまうメロディ。そこには、人間の根源、表現の根源があるはず…。去年に引き続き2度目のスタ☆タン!!。今回はいわきで食堂やオルタナティブスペースの活動も行われている「いっただれ kitchen」で開催した。

投稿された動画作品(そこをなんとかでは「作品」と呼んでいる)を鑑賞し、クロストークするのは、言語聴覚士、デザイナー、編集者、民俗学者など多種多様なながらも、日頃共に活動しているメンバーならではのグルーブ感が生まれていた。動画作品は、そんなチームや地域の身近な人々の日常の表現がそれぞれの鑑賞者の視点とともに切り取られてた。雪の中即興雪ソング&ダンスを披露する女の子、親と囲む食卓で「ピー

ル、ビール、泡ビール」と独自のフリとともに口ずさむ男子の「コロナは七千万五百」とフルート片手に謎の節を唱える男性。また、小型音楽オーディオを自らの口で塞ぎフィルターをかけるという人力エフェクトをする女の子や団地の中で歌うデュオなど、審査員からもそれぞれ独自の表現への感嘆とともに「これ一枚のコンピレーションアルバムが作れるんじゃないか?」と言った声もあがった。

その後も、対象は人間にとどまらず、庭に訪れる小鳥が毎日のように木の実の殻をやぶる様子を記録した「今日も私は殻をやぶる」や、去年に続きおなじみの地域の公民館に集まりハレとケの合間のように踊りを披露するおばちゃんたちの姿を収めた「北2区」など老若男女の模様が集まった。

しかし、審査トークの中ではそんなスタ☆タン!!の課題も話題が上がった。今回、地域の福祉施設など様々な場所に参加の誘いをかけ、「そういうのうちでもあるかも!」となったものの、あと一歩動画作品としてスタ☆タン!!に上がったくるまではいかない、というものだ。誰かの日常のグッとくる姿を動画に収める、そしてそれをみんなで鑑賞し話し合う場へ公開するという2つのハードルを乗り越える必要がある。誰かの日常の意識して

いないかもしれない表現を第三者目線で切り取り面白い!という行為は時として暴力性もはらみ、丁寧さが要だ。それでも、自分だけかもしれないけどあんなて素晴らしいんだらう!と日常の表現を惹き、自分はこう見た!とそんなスタ☆タン!!の一夜のように真剣に語り合うことで生まれるものを共有していったらと強く感じた。

(レッツスタッフ・高木藍子)



Riko Filter

フィルター……
波形の一定部分の音域をカットし
音色を変化させる装置。

デジタル全盛の中、フィルターエフェクトを自分の体を使って、自分の好み通りに楽しむ者がいるという、……



ハンモックの揺れ方
—— じゃなくね



日時 | 2022年2月13日(日) 18:00~20:00
会場 | いわき市平 いっただれ kichen.

司会 |
小松理虔 そこをなんとか

審査員 |
猪狩僚 いわき市職員
大平裕太郎 言語聴覚士
高木市之助 グラフィックデザイナー
ふきこ スタ☆タン!! 公式キャンペーンガール



- 福島スタタン出演者 |
- 小松佐和
 - さわ&じったのぶくん
 - 猪狩僚
 - 高木市之助 「てんちゃん」
 - 佐藤洋美
 - 田村丈太郎
 - 青木ビデオ
 - 大平裕太郎
 - 好間北二区ばぁの会
 - 木田航太郎



そこをなんとかとは、いわき市の地域包括メディア「igoku」を手がけるデザインチーム。市役所職員、デザイナー、地域文化研究者らがチームを組み、森羅万象面白がっている。

「スタ☆タン!!」 ミュージカル未満。 松宮は見た!

ぶんちやっちゃんぶんちやっちゃん。遊園地で聞くような軽快なオルガンの音と「いらっしやい、いらっしやい、いらっしやいませ」とやわらかくちよっぴり妖艶にひびく歌声とともに、このミュージカルっぽいものは始まった。司会のおじさんがバスガイドの格好をした女性とともに登場し、ほぼ90度の角度でお辞儀をしたと思ったら客席をじっと向いて左から右へとお客さんをスキャンする。あ、あやしい・・・! そうこうしていると、男性2人組が出てきて舞台を見るように座った。「あれ、松宮くんじゃない?」と舞台の方を指差す。司会のおじさんはいなくなり「松宮くん」と呼ばれるそのひとは、赤い布をかぶって「さむいなーさむいなー」と稲川淳二っぽい口調で言っている。(でもあんまりさむそうじゃない)松宮くんは寒さをしのごうと、巨大な箱から巨大なマッチ棒を取り出して、シュツと火を灯した。その瞬間!お面をかぶった男の子が出てきて敵と戦闘を始めた!審査員に渡されたコマンドボード、そのボードから次の行動を選べという!なんてムチャブリだ!「さあつ、どうするっ?」と男の子。敵はいまにも男の子に襲い掛かりそうだ!なんだ!なんだ!!「スタ☆タン!!ミュージカル未満。松宮は見た!」は、ミュージカルっぽい舞台のなかで、出演者が順々にそれぞれの「表現未満」、「日々の営み」、「音楽」などのパフォーマンスを行っていくステージだった。ドラマ的な演出がされた部分と、パ



フォーマンズ部分とが入り乱れる構造になっていて、出演者たちは演じているようにも、日常の姿のようにも見えた。演技と日常がいきまざるのも面白いし、それぞれの個性がぶつかりあうのになぜかひとつの舞台としてもまとまっいて、見ていても楽しかった。

今回の出演者のみなさんは松山ブンカ・ラボとかねてより交流のある人たちようだった。いままでも一緒ににかな面白くことをしたり、語り合ったりしている仲ようだった。会場になった「シアターねこ」では、人が集まったり、表現したり、人の表現を見たりするなかで、日々出会いが生まれている。そして松山ブンカ・ラボの戸館さん、松宮さんが場所をひらいて、人と話して、面白いこと一緒にやってみませんかと声をかけ、ひとが表現する「場」を作り続けている。日々の積み重ねがなければ今回の松山のスタ☆タン!!はできないことだったと思う。ようやくわたしは、スタ☆タン!!が開催され続ける意味をすこし知ることができたのかなと思った。

(レッツスタッフ・杉田可憐)

松山ブンカ・ラボとは、松山市の芸術文化振興を目指し市民講座を展開する団体。ワークショップなどのほか、県外のアーティストを松山市に招き、松山の文化や歴史などをリサーチ・発信するアートプロジェクトを進行中。

日時 | 2022年2月26日(土) 14:00~16:30
会場 | シアターねこ

出演 | 入義秀子
カンダマン
初期衝動(佐々木家)×豊島足穂のぶ
ハズシゲ
藤原陽子
松宮俊文

音楽・演奏 | 中ムラサトコ

司会未満 | 杉山田スギオ 地産地消アーティスト

審査員 | 井上志保 社会福祉士
牛島光太郎 美術家
越智雄磨 ダンス批評
長島確 ドラマトゥルク
ふきこ&かぬい レッツスタッフ

審査員未満 | 武井裕章 PPAC平和通りアートセンター館長

ツッコミ未満 | 鯉川多又吉 覚醒チンドンネットワーク
戸館正史 松山ブンカ・ラボ



新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC スタ☆タン!! Z — AcrosstheChaos —



スタ☆タン!! Z以前からインスパイアイベントを行ってきたNASCの今回のスタ☆タン!!は、なんと東海・北陸地域の障害者芸術に関わる人々に向けての「研修会」形式だ。レッツ代表・久保田の表現未満、についての講演会の後、NASCとレッツの各スタッフの見るスタ☆タン!!的事象について、動画や会場パフォーマンスを交えつつ参加者と話し合った。

① Yさん

現地会場内でイベントに参加したYさんは座席に座るなり靴を脱いだ。靴下は履いていなかった。彼女はいつでも靴を脱げるようにしながら履いているのだらう。靴紐が解けているのは、いつものことに違いない。彼女の足の裏は、横から見ても皮膚の色が変化し、硬くなっているのが分かった。彼女が外で靴を脱ぐことを習慣としていることはそこから想像できた。そのことを見せびらかすよううでさえある。恐らく靴は、

長距離の移動のために履いているもので、彼女なりに安全に配慮しているのだらう。雪国ゆえの習慣なのかもしれない。室内では、そこが土足のための場所であっても、基本的に裸足で歩き回っている様子だった。個人的に靴を脱ぎたくない気持ちはよく分かる。衣服に比べても靴は固く、窮屈だからだ。Yさんは、思ったことを何でも口に出して言うことを己の信条としているらしい。彼女が会場内で、裸足のままで、マスクをしたまま、自身が用意した歌を熱唱した。彼女の歌にはパフォーマンスとしての確かな強度があった。それはまさに「表現」だった。

② zoomの画面に映る参加者の方々

一つのノートパソコンの画面に、10以上の顔が映っている。彼らの顔、表情は大雑把に「見る」ことができる。しかし、これを「見た」と呼ぶことには大いに議論の余地があるだらう。もし仮に、ある映画をこれと同じやり方で（例えば、「ダイハード」が10以上あるノートパソコン上の画面の一つで流れていて、残りは違う映像が流れているような状態で）見たとしても、その映画を「見たことがある」と言うことは難しいに違いない。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のために、イベント参加者の大部分はパソコン画面上でのリモート参加となった。しかし、彼ら（もしくはわたしたち）の体験は分断され、バラバラの空間で体験の欠片を拾い集めているに過ぎない。わたしたちに共通しているのは、「パソ

コンの画面を見つめている」という共通の体験でしかない。結局、そういった場で要請されるのはまたしても言葉ー共通の体験を得るためにはあまりにも不都合なものとしての言葉ーしかないのだ。しかし、言葉には、それぞれの内的空間で狂い咲くことができるといった利点も持っている。そんなわけで、どうにかこの状況に少しでも光明を見出そうと一生懸命話した。上手くいったかどうかは分からない。

③ 休憩、トイレ、駅ビル

イベントを途中退出してトイレに行くのが好きだ。逃げ場のない空間は息が詰まる。トイレの個室は公共の場の中で鍵をかけることのできる稀少な空間だ。アルスノヴァの施設にもトイレに籠るのが好きな人がたくさんいる。会場は駅ビルの中にあった。最寄りのトイレは使用中のことが多かった。中から特に音もしないのだが内側から鍵がかかっている。みんなトイレに籠るのが好きなのだ。そんなわけで、新潟駅ビル内のトイレをいくつも梯子することになった。家電屋の中のトイレが比較的空いていて使いやすかった。

④ 再現/再演、目撃

スタ☆タン!!というイベントは、一度(以上)起きたことが再現/再演されるような場だ。それは、何かが発生する場ではないということだろうか?しかし、「時間」がある以上何かの発生は常に起こっている。それは、同じ曲を演奏するとき、同じ歌を歌うとき、幾度となく見られたら動画をもう一度再生するときでもそうだ。「同じもの」を見ること。目撃者を増やすこと。そのうち「同じもの」は変わっていく。



日時 | 2022年3月1日(火)
会場 | MOYORE:

出演 | Baby☆Baba・52+ゆうじんぐ
のぶくん
さとちゃん
羊のクロニクルズ
Kくん
さけつ
にっちとさっち
YOHKO

講演 | 久保田翠 レッツ代表理事
審査・トーク | 高木路子 スタ☆タン!!キャンペーンガール
曾布川祐 レッツスタッフ
角地智史 NASC スタッフ
坂野健一郎 NASC スタッフ

新潟県アール・ブリュット・サポート・センターとは、2016年から、新潟県を中心に東海・北陸地域で主に障害のある人の芸術文化活動を地域に広げる活動を行なっている。地域に転がっている様々な表現をまちの文化にすることを目指す。色んなもの・人が集まる「ふふふのお店」も運営中!

宮崎 アーツカウンシルみやざき

スタ☆タン!! 宮崎(しゃーぷっ) new world order

アイザックスターンホールでの社会包摂の祭典から1年、今回のスタ☆タン!!は宮崎の夜の花、スナックを会場に繰り広げられた!

バラダイス銀河からやってきたというスーパーアイドル・日野誠のローラースケートとともに颯爽(?)と幕を開けたスタ☆タン!!。プロなのどころか(頑張れ!...)と応援してしまっ手品から、小児まひの男性の詩の朗読、大好きな風のダンスを踊る女の子、4人組なの前日一人になってしまった男子のピアノ演奏、など多様な演目が続く。出演者たちは、障害を持つ人もそうでない人も、プロもアマも、大人も子どもも揃っている「多様さ」だ。しかし、このスタ☆タン!!、そんな単純な魅力ではない。そして見てみると、何だか全てに共通するものを感じた。

「ニュー岩切」という女性が出てくるや「ボール蹴りながら笛吹きます」と言って、ただただビールボールを蹴りながらリコーダーを吹くのだが、全然出てこない。笛が上手いわけでもない。とても驚いたが、どこか面白い。笛がしこしこは「出てこないことへの面白さ」が、どこか面白い。しかしこれは「出てこない」は彼女の同僚で、「彼女のなんかわからんけどなんかやばいところが出てくる」と評していた。「なんかわからん」けどグツとくる。スタ☆タン!!をやっていると、この感情にはよく出会う。時に衝撃、時にくだらなさとともに。「言葉が出てこない体験」というのは一番素晴らしい。自分の知識と経験

値が及ばない、歯が立たない。その場で一挙に言葉を組み立てる。」と審査員の中津川さん。スタ☆タン!!は何とも言い表せないものをそれでも真剣に自分なりに言葉にする行為であり、それをとても大切にしている。

また、中津川さんの「はつきりと(詩の)言葉が聞き取れなくとも、聞きたいと思わせる、人間から現れる表現力」、「ぎこちない緊張感から、歌いたい踊りたいという根源的なものが伝わってくる」という言葉を聞き、私も改めてその感覚について考えさせられた。スタ☆タン!!は表現の拙さや正統派とのズレを面白がっているようで違っただ。何かの表現がいわゆる「上手」な人の表現も良い。しかし、誰かが、意図するしないはともかく、日常の中や飛び出した人前で表現する時放ち溢れ出す生の人間の輝きに、私はとても感じ入っているのだ。

ちなみに、スタ☆タン!!宮崎では「大賞」を決める。元祖「雑多な音楽の祭典」スタ☆タン!!では、「みんな違っじゃない」という中で、あえて考え抜いて一番を決めよう」と大賞を決めていたが、スタ☆タン!!Zでは私が悩んだ末「審査員賞」(それぞれ一番グツときたもの)の制定に留め、他団体にはそれぞれ自由にお任せしていた。その大賞の在り方も、興味深かった。

今回の宮崎では、チョコクにやもなかジャンボさんが見事大賞に輝いた。プロデューサー山森さん(元レッツスタッフでスタ☆タン!!の生みの親)が路上で出会い、スタ☆タン!!の舞台

に誘ったパフォーマーで、その一見訝えない姿から繰り出される堂々たる激情、魂のこもった言葉、机にたたくさんのマイクを肅々と並べ次の瞬間それを放り出し踊り出す。わたしもその引力と掴めない魅力にとても惹かれた。しかし、さらにそこでは終わらない。大賞をもらったにやさんは、これって大賞が大賞選んでもいいんですか?と、自分が一番グツときたなっちゃんに大賞を譲渡したのだ。普通ってなんだろうなと思いましたがと静かに呟くにやさん。彼はおそらくスタ☆タン!!というものに出会ったのは今回が初めてだと思われるが、路上で出会った彼が、さらにスタ☆タン!!という場で心動かされる表現に出会う、様々な形の「出合いの場」だったのだ。スナックという、内と外の間のような、親密さも孤独もあり、時折それぞれが出会い交わるような場所が、今回のスタ☆タン!!の場を作り出し、そして象徴のようだった。

(レッツスタッフ・高木路子)

日時 | 2022年3月20日(日) 14:00~16:30

会場 | ENTERTAINMENT SNACK FARCE

司会 | 夏目るな

審査員 | 愛甲貴大

かみもと千春

中津川浩章

スーパーアイドル日野誠

出演 | 日野誠(オープニングアクト)

チョコクにやもナカジャンボ

和田祥吾

ヤっつけたる

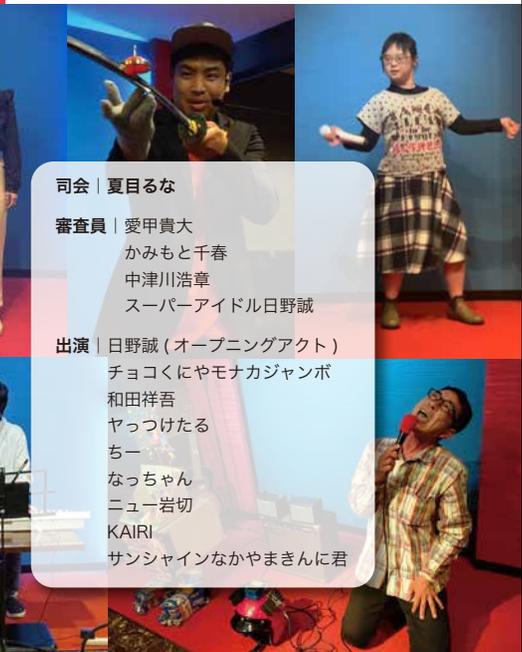
ちー

なっちゃん

ニュー岩切

KAIRI

サンシャインなかやまきんに君



アーツカウンシルみやざきとは、「文化のよろず相談所」をキャッチフレーズに、宮崎県内の文化芸術活動の支援を行なっている。初代スタ☆タン!! 応援団夏目るなが度々現れる。

今回で2回目となる、ぶっとびアートによる長野県御代田町で開催の「みよたスタ☆タン!!」。昨年は、舞台を縦横無人に走り回る子や、突如「わたしもやる!」と舞台上の子など、子どもたちは舞台上という特別な遊びを倒し、その明るいユーモアに、客席の家族が温かい声援をあげるというアットホームな内容だった。

それから1年、今年のスタタンは、少し進化(変化?)していたように思う。参加者の楽しみ方が変わったのかもしれない。それは、パフォーマンスの内容や揃いの衣装、凝った小道具などから伝わってきた。今年のスタ☆タン!!は何をしようかと計画を練り、練習を重ね、家族一丸となって作り上げられていた。それは昔テレビで見た、家族対抗歌合戦や欽ちゃんの仮装大賞のようだった。

トップバッターで名乗りをあげたゆうきくんのダジャレ。彼がダジャレを言う度に、客席の家族や仲間からあがる歓声で大いに盛り上がった。たどたどしいピアノ演奏で会場の心を一つにした初代ワタナベの父の「GET Wild」。お風呂のバブやた焼きの上の鯉節のモノマネでみんなを笑わせた、はやちゃんのシュールすぎるものまね。唯一県外から参加のYOHKOさんは、新潟からピスフルな思いを届けに参加してくださった。父と娘が目と目で合図を送り、せーの!で

元気いっぱい歌とダンスを披露してくれた、とにかく明るい渡邊の「親子で〇〇やってみた!」。揃いの忍者衣装でキッチン道具を楽器にユニークなパフォーマンスを見せてくれた長崎三兄弟。くるみバターはそのパフォーマンスの可愛らしさだけでなく、手作りのセットや会場に流れる音楽から楽しく準備する家族の絵が浮かんできた。えんちようせんせいピアノ演奏には、客席の子も審査員から「すごかった!」と素直で真っ直ぐなコメントがあがった。最優秀賞を取った山となべ。with うーぱーによる「エコールみよたランド2022」は3家族合同のミュージカルで、その華やかさと3家族と一緒に舞台上がるまでのストーリーに胸がキュンとさせられた。他にもたくさん魅力的なパフォーマンスと温かい家族の姿があった。

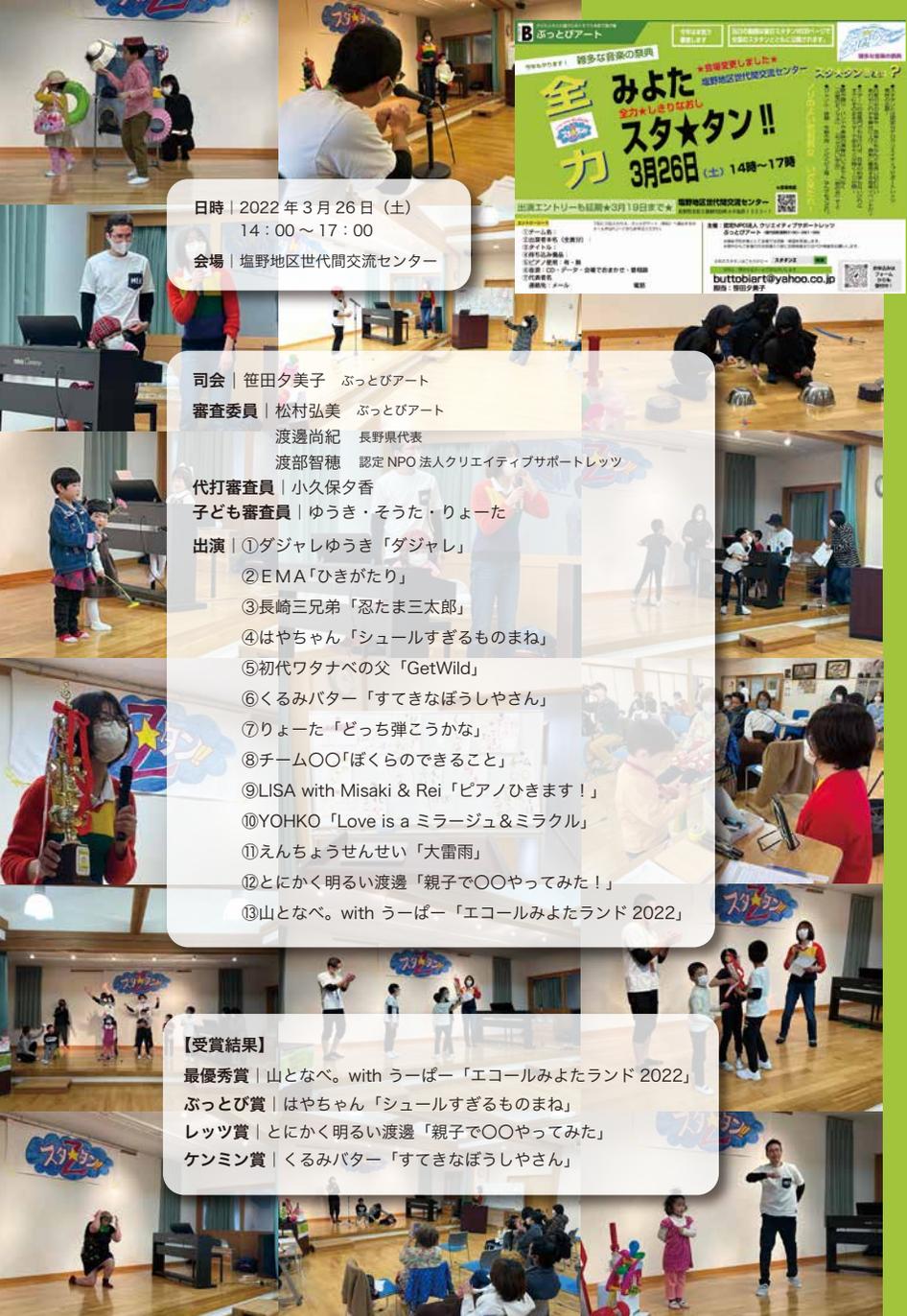
みよたスタ☆タン!!は、家族が一丸となって好きなことを楽しむものになっている。それは、内輪ノリと言ってしまうようなものかもしれない。しかし、小さなコミュニティの中で独自路線を突っ走り、今後、笑いあり涙ありの家族行事として愛されていくのかもしれないと思う、私は来年の「みよたスタ☆タン!!」にも期待せずにはいられない。



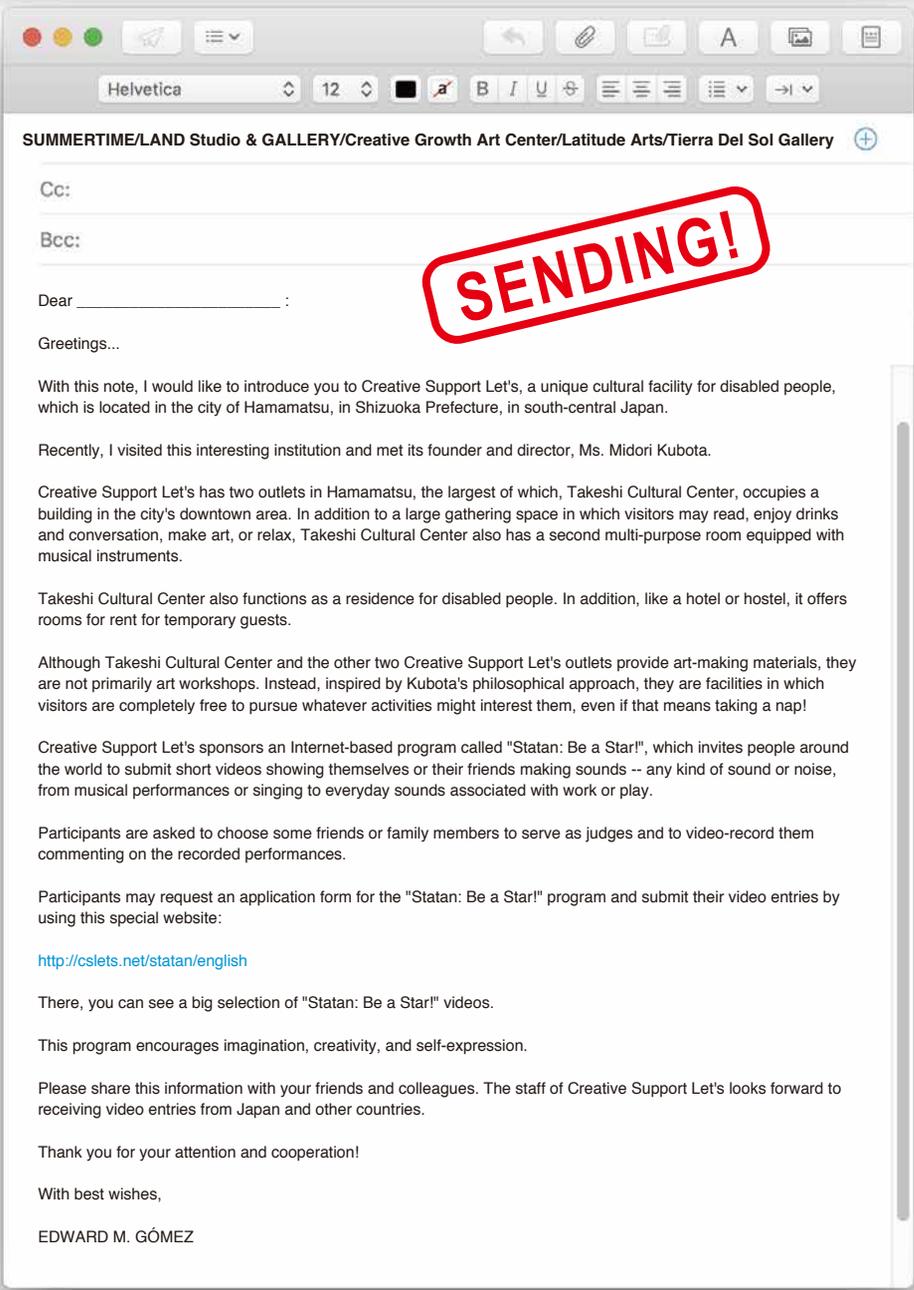
日時 | 2022年3月26日(土)
14:00 ~ 17:00
会場 | 塩野地区世代間交流センター

司会 | 笹田夕美子 ぶっとびアート
審査委員 | 松村弘美 ぶっとびアート
渡邊尚紀 長野県代表
渡部智穂 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
代打審査員 | 小久保夕香
子ども審査員 | ゆうき・そうた・りょーた
出演 | ①ダジャレゆうき「ダジャレ」
②EMA「ひきがたり」
③長崎三兄弟「忍たま三太郎」
④はやちゃん「シュールすぎるものまね」
⑤初代ワタナベの父「GetWild」
⑥くるみバター「すてきなぼうしやさん」
⑦りょーた「どっち弾こうかな」
⑧チーム〇〇「ぼくらのできること」
⑨LISA with Misaki & Rei「ピアノひきます!」
⑩YOHKO「Love is a ミラージュ&ミラクル」
⑪えんちようせんせい「大雷雨」
⑫とにかく明るい渡邊「親子で〇〇やってみた!」
⑬山となべ。with うーぱー「エコールみよたランド2022」

【受賞結果】
最優秀賞 | 山となべ。with うーぱー「エコールみよたランド2022」
ぶっとび賞 | はやちゃん「シュールすぎるものまね」
レッツ賞 | とにかく明るい渡邊「親子で〇〇やってみた」
ケンミン賞 | くるみバター「すてきなぼうしやさん」



ぶっとびアートとは、こどもとおとなのあそびゴコロをくすぐり本気で遊んでみる場。2005年から浜松を中心に数々のワークショップを行ってきた。長野スタタンは、'ぶっとび笹田'が移住した御代田町にて開催。



SENDING!

Cc:
Bcc:
Dear _____:

Greetings...

With this note, I would like to introduce you to Creative Support Let's, a unique cultural facility for disabled people, which is located in the city of Hamamatsu, in Shizuoka Prefecture, in south-central Japan.

Recently, I visited this interesting institution and met its founder and director, Ms. Midori Kubota.

Creative Support Let's has two outlets in Hamamatsu, the largest of which, Takeshi Cultural Center, occupies a building in the city's downtown area. In addition to a large gathering space in which visitors may read, enjoy drinks and conversation, make art, or relax, Takeshi Cultural Center also has a second multi-purpose room equipped with musical instruments.

Takeshi Cultural Center also functions as a residence for disabled people. In addition, like a hotel or hostel, it offers rooms for rent for temporary guests.

Although Takeshi Cultural Center and the other two Creative Support Let's outlets provide art-making materials, they are not primarily art workshops. Instead, inspired by Kubota's philosophical approach, they are facilities in which visitors are completely free to pursue whatever activities might interest them, even if that means taking a nap!

Creative Support Let's sponsors an Internet-based program called "Statan: Be a Star!", which invites people around the world to submit short videos showing themselves or their friends making sounds -- any kind of sound or noise, from musical performances or singing to everyday sounds associated with work or play.

Participants are asked to choose some friends or family members to serve as judges and to video-record them commenting on the recorded performances.

Participants may request an application form for the "Statan: Be a Star!" program and submit their video entries by using this special website:

<http://cslets.net/statan/english>

There, you can see a big selection of "Statan: Be a Star!" videos.

This program encourages imagination, creativity, and self-expression.

Please share this information with your friends and colleagues. The staff of Creative Support Let's looks forward to receiving video entries from Japan and other countries.

Thank you for your attention and cooperation!

With best wishes,

EDWARD M. GÓMEZ



スタ☆タン!!世界進出?!

10月5日(火)

ニューヨークと東京、スイスを拠点に美術評論家、美術ジャーナリスト、キュレーターとして活躍しているエドワード・M・ゴメズさんをたけし文化センター連尺町に招待しました。スタ☆タン!!の輪を世界にも広げたいと悩んでいた我々に、アーツカウンシルしずおかのプログラムのディレクター榎野展正さんが紹介してくれたことがきっかけです。日本のアールヴリユットにも精通しているゴメズさんに、レッツの日常を体感してもらい、「表現未満」や「スタ☆タン!!」についてお話ししました。

そこでゴメズさんに、スタ☆タン!!世界進出を後押しする紹介文を書いていたとき、紹介してくださったアメリカのアートセンター、ギャラリー、福祉施設などに送ることに。今後スタ☆タン!!をアメリカで開催する日がやってくるかも!?お楽しみに!!!

送り先..

- ニューヨーク「サマータイム」※1
- ニューヨーク「ランド・スタジオ・アンド・ギャラリー」※2
- カリフォルニア「クリエイティブ・グロース・アートセンター」※3
- レキシントン「ラティチュード・アーツ」※4
- ロサンゼルス「テイエラー・デル・ソル・ギャラリー」※5

計5施設

※4 Latitude Arts www.latitude-arts.com
 ※5 Tierra del Sol Gallery tierra-del-sol-gallery.myshopify.com

※1 SUMMERTIME www.summertimegallery.org
 ※2 LAND Studio & Gallery landgallery.org
 ※3 Creative Growth creativegrowth.org

「審査員、五島列島体験記。」

佐々木誠（映画監督）



21年末、レッツ代表の久保田翠さんから連絡があり、年明け、長崎県五島市で行われる「スタ☆タン！」の審査員のお話をいただいた。日程が、プロデュースしている映画『愛について語るときにイケダの語ること』横浜公開の初日が、受けさせるので少し迷ったが、受けさせてもらうことにした。

レッツとは7年くらいのお付き合いで、これまで私の映画の上映イベントのゲストなどで呼んでもらったり、タイムトラベル100時間ツアーのPV映像「光を、観る」を制作させてもらったりしたが、スタ☆タン！はこれまで未参加だった。

スタ☆タン！！は「障書の有無に関わらず、それぞれの日常のなかの音、音楽を表現し、審査するプロジェクト」（と初期のサイトに書いてある）という、レッツを体現するようなイベント。いつか参加したいと思っていたので、声をかけていただき嬉しかった。

今回は「スタ☆タン！！Z全国ツアー2021」と銘打ち、全国8カ所で行われ、私が呼んでいた長崎県五島市でのタイトルは「スタ☆タン！！映画祭 in GOTO」とあった。音楽ではなく映画」ということで、自分が審査員に選ばれたことに納得。

元レッツスタッフでスタ☆タン！！の発案者でもある、現アーツカウンスルみやざきプログラマディレクターの山森達也さん曰く「スタ☆タン！！は、ステージがない人のためにステージを作る、今までスポットが当たらないという間に完食。到着から1時間、すでにここに来て良かったとしみじみ思う。

微かな磯の香りが気持ち良い、ゆったりとした空気が流れる近辺をぶらぶら散歩しているうちにすっかり暗くなってしまった。東京と違い夜がちゃんと闇なのが良い。西だから勝手に暖かいと思っていたら、東京よりもだいぶ寒かった。島風をナメていた。なんとなくかつて海を渡りこの地に辿り着いた宣教師たちに想いを馳せる。たゆたうに戻ると店先の喫煙スペースでキャップをかぶった同世代くらいの男性がタバコを吸っていた。「こんばんは」と声をかけると、男性が、「あ、もしかして佐々木誠さんですか？私、今日一緒に審査員する中村健児と言います。よろしくお願いたします！」と挨拶してくれた。

中村さんは普段、島内で定期巡回の訪問介護というお仕事をされていて、その合間に今日の審査員を務めるということだった。そんなハードな日々に、私と会うということでわざわざ配信中の拙作『ナイトクルージング』観てくれていて、感想もいただいた。ありがたいです・・・。

19時からいよいよ「スタ☆タン！！映画祭 in GOTO」がスタート。久保田さんも来て審査する予定だったが、直前で難しくなり、浜松のレッツからリモートでの参加となった。ちょうどコロナが再び蔓延し始めたタイミングで、お客さんは年配の方中心に数多かった。始まる前に皆さん、たゆたう。名物の五島牛を使ったハンバーガーを頬張りながらワイワイしている、こちらもだんだん楽しくなってきた。

今回のイベントの内容は、片岡さんと映像作家の牧園憲二さん共同制作の「五島のまだ知られていないスター」を紹介する5作品+OP映像の上映を行い、それを久保田さん、中村さん、私が審査（というか講評）するというものだった。

かった人たちにスポットを当てるのが趣旨」で、それは〈音楽〉に限らない、とのこと。遠藤周作『沈黙』が愛読書だったので、元々五島列島に興味があったし、ちょうど最近、山森さんから今回の「スタ☆タン！！映画祭 in GOTO」代表で、長年五島市で文化活動を行う片岡優子さんのことを聞いていた。

いつも面白いハナシは不意だが絶妙なタイミングでやってくる。それに飛び込まない手はない。

22年1月15日、羽田から長崎、長崎からプロペラ機に乗り換えて夕方近く五島列島・福江島に初上陸した。プロペラ機はかなり久しぶりで、天候が悪く揺れたのもありちょっとしたインディ・ジョーンズ気分。空港に片岡さんが迎えに来てくれた。

小雨の降る中、車に乗って、今回のイベント会場である片岡さんが経営するカフェレストランたゆたう。に向かう。

初対面だが、共通の知り合いが多いのですぐに旧知の仲のような気分。さっそくのユニークな毒舌にシンパシーを覚える。

たゆたう。は空港から10分くらい、福江港に近い広い通りに面した場所にあった（通りを挟んだ向かいにお城があったので聞いたら、福江城跡に建てた観光歴史資料館とのこと）。

おしやれで広い店内では、レッツスタッフの渡邊亮介さんが今夜の撮影配信のセッティングを始めていた。渡邊さんは朝方にフェリーで到着したらしい。元々東京の映像制作会社でバリバリ仕事していただけあって動きに無駄がない。

さっそく片岡さんに五島うどんを作っていたたく。繊細かつコシがある初めての食感で、むちゃくちゃ美味い。かなり大盛りだったがあつ

フェリーが福江港に到着した瞬間を乗客目線のワンカットで描いたかつこいOP映像「マクアケ」の後、1作目「鳥の目を持つ原塚祥吾」の上映が始まった。自閉症スペクトラム障書を持つ、アーティストの原塚祥吾さんをフィーチャーしたこの作品。原塚さんが幼少期からが見てきた様々な風景を再構築し、架空の街の緻密な俯瞰図として描いた『繋がつてゆくまち』などが紹介され、すでに各所から評価をされている多才な活動が7分弱にまとめられている。

上映後、片岡さんの「どうでした？」という問いに、久保田さんは「私、こういう人いっぱい見ているから。他の人どうぞ」と一言。会場に緊張が走る。

それを受けて私は「原塚さんはそのうち『情熱大陸』に出てもおかしくない人だと思えます。ドキュメンタリーとして深掘りしてもいいですが、『レインマンス』みたいな方向で彼をモデルにした劇映画も作られそう」というようなことを話した。実際、被写体として魅力的な人物で、彼の作品も興味深かったが、良くも悪くもマスに受けそうではあるので、レッツで紹介するタイプのアーティストではない気はした。再び久保田さんが語る。「発目これか、と。わりと真面目なインテリっぽい切り取り方だと思えます。こういうのを見ると表現で何なんだろうな、とモヤモヤします。（取るに足らないしもうもない表現と）誰かがもう見出していて評価を受けている表現に格差があるのかなのか。私はないと思っていますけど。それがスタ☆タン！！の醍醐味で核心の部分で、これまでのスタ☆タン！！の審査会ではこういった作品（人）は落ちていっています。片岡さんは彼のどこにグッときましたんですか？」

会場の空気がさらにピリツとして、片岡さんの動揺が感じられる。

「私は鳥瞰図が好きで、世界に鳥瞰図かける人はあまりいないと思うので。評価されるといふより単純に尊敬する友人だから紹介したかったというのがあります。私、スタ☆タン!!の趣旨わかってたのだから：ちょっと不安です・・・」と言う片岡さんの横でなんだか私も緊張してきた。気のせいかもしれないが、隣の中村さんもちょっと固まっているように感じた。でもこの緊張感も醍醐味だと思う。ただ「楽しい」では終わらないのがレッツだ。

2作目「餅まき」は、嶗山地区で行われた上様式の餅まきの様子を描いた作品。子供を中心に多くの人が集まり、建築途中の建物から投げられた餅をキャッチする。その初めて見る光景になぜか懐かしさを覚えた。

上映後、「会場にいる方はほとんど嶗山地区の方なので（知り合いや自分がかけていたので）ちょっと盛り上げていました。私、スタ☆タン!!の趣旨を理解していますかね・・・？」と先ほどのことがあったので不安げに久保田さんに語りかける片岡さん。ここでレッツにいる久保田さん、高木さん（「スタ☆タン!!」キャンペーンガール）、会場にいる私、中村さん、観客の皆さんらでの各地域での上様式の餅まき文化の話題で盛り上がり、片岡さんの表情も少し緩む。

私は親が転勤族だったので幼少期に、関西〜中部〜関東で育っているのだが、この行事に関して全く知らなかった。親に来ていた地元9年の配の男性がこの地域の餅まきについて私に色々教えてくれたのだが、五島弁が強くて3割ほどしか聞き取れなかった。でも、違う世界に生きる者同士は、伝えよう、受け取ろうとするこういつた向き合ったコミュニケーションはやっぱり良いなと改めて思った。

3作目「中村博民族博物館」は他の作品が3〜7分のところ18分という長尺だった。玉之浦町布浦の道路沿いにある自宅の敷地内で、私物、仕

最後は、玉之浦町荒川にある酒店を描いた「山口酒店の夜」。こちらは店内で立ち飲みできるいわゆる角打ちができるお店で、日々ご年配の女性店主の元に多くの飲兵衛たちが集まっているのだが、そのある夜だけを描いている。これまで上映された作品は登場人物のコメントフォロワーのテロップがほとんどなかったが、本作は全編ついている。最初に最後まで出てくる人ほぼ全員（片岡さんも）が酔っ払いつづけている。上村弁で話しているからだと思うが、そのテロップ自体が映像演出としても効いている。会話が会話でなくなるのに通じ合うのが酒席の妙だが、その繰り返される同時多発の言葉を可視化して追うことで、それぞれのリアルな関係性がより浮き彫りになるのが面白い。知り合いではない人たちの酒席を映像で見て愉快な気分になるのは、この光景が全国、全世界共通の身近であからさまな平和だからだろう。私は全く知らない土地に一人で行き、角打ちやスナックで初対面の人と飲むのが好きなのでこの中に混ざりたいと夢想してしまっただけ。コロナでそういう機会が減ったが、やはり旅の醍醐味は、観光地に行くのではなく、地元の人と一緒にその土地のものを食べて「多くの場合酒も飲み」対話をするのだと本作を観てつくづく思った。

上映後、久保田さんは「一番最後のこの作品、片岡優子の世界を見たという感じでした！」と笑顔で話し、片岡さんはスナックやったほうが良い。それは文化創造ですね！とも。レッツの高木さんも以前移動スナックをやっていたと話し、最終的に今度一緒にスナックをやりますよ！と提案、お客さんもそれに盛り上がり、「スタ☆タン!!映画祭in GOTO」は大回田で幕を閉じた。

私個人的には、始まりの「鳥の目を持つ原塚祥吾」から最後の「山口酒店の夜」まで、片岡さん視点の五島の魅力がフランス良く詰まっていたラインナップだったと思う。出てきた全ての場所に行き、全ての人に会ってみた

事道具、自作のイラストなどを展示する中村博さん（80歳）の私設民族博物館を描いている。個人的にはこの作品が一番好きだった。写真などで構成された家族史の数々、大ファンの水森かおりさんの〇〇ツッパグッズ、友人の子供用に作った滑り台、養蚕用のストープ、人力麦穂すり機などから漁船まで中村さんの「日常」が3つの家屋に分けられ陳列されている。さらに自ら描いたティズニキヤラクターやちびまるこちゃん、アンパンマン、ドラえもんなどに、似た、作品も外に飾られているのだが、それら全てを単なるごった煮と感じさせないバランスも美しい。中村さんという一般的には無名の人の歴史、生き様、内に秘めているものが立体的に表現されていて、見て触って体験できる、というのがたまらない。それが現在進行形というのも素晴らしい。本物のクリエイティブを感じたし、五島への愛もピンピン伝わってきた。

上映後、会場でも大好評で、私は「明日ここに連れて行ってください」と片岡さんをお願いする。

4作目「しゃべる獅子舞」は、毎年三が日に島内の八幡神社で獅子舞に扮して参拝客の頭を噛み続ける遠越末光さん（本業は左官屋さん）の姿を捉えた作品。獅子舞が噛む様子は泣きじやくる子供を中心にユーモラスに描かれるが、なぜ遠越さんが何十年もこの活動をボランティアで行なっているか、などは一切説明がない。その誰も持った幼少期の記憶の断片を切り取ったような構成が良く、「餅まき」もそうだが、不思議な既視感に浸れた。上映後の獅子舞の噛み方がねっとうしてエロティックだという話に。片岡さんと私は、それは「ツイゴイネルワイテ」の原田芳雄みたいな誠実な色気」と解釈し、意気投合。獅子舞が人々の頭を噛むこの行為も全国的に見られる光景らしいが、私は一切知らなかった。身近な文化に疎いにもほどがある、と反省。

いと思っただし、何より実際に五島に来て、そこに暮らす方たちと作品を共有し語り合えたのは素晴らしい経験だった。

中村健児さんもまとめて、五島出身の自分も知らない五島と出会ってこの場があった良かったと語り、イベント終了後、夜中だというのに、訪問介護の仕事に戻られた。そのタフさ実直さ、リスペクト。中村さんにもお会いできて良かった。

というわけで、翌日行く予定だった年に一回だけ行われる島の奇祭「ヘトマト」がコロナで中止になったので、片岡さんに教会群巡り（『沈黙』好きとしては色々グツとききました）、そして映像に出かけた「中村博民族博物館」と「山口酒店」に連れて行ってもらった。

実際にお会いした中村博館長は若々しくエネルギーに満ち溢れていて、民族博物館は映像に映っているよりもっと多くのモノがあり、ずっといても飽きない。館長自案内もしていただき警沢たなあ、と感激。その前後、中村さんは電気のコギリで板を切ったり常に作業していた。中村さんが生きている限り博物館は進化し続けるのだ。また同化するを得ない。途中で寄った道の駅で仕事の休憩中だった中村健児さんとばったり。ご縁あるなあ、と笑顔でグーパンチ。

1日かけて島に点在する多くの教会を案内してもらい日が落ちたタイミングで荒川温泉に到着。これが超高温だが泉質が良くて、島風で冷え切った身体を隅々まで沁みて気持ち良かった。

温泉後に近くにある山口酒店に暗闇の中歩いて行った。ちょうど我々を入れ替えて映像に映っていた常連さんたちは帰ったところで、お会いできなかったのが残念（18時過ぎに行つたのだが、皆さん午前11時くらいからずっと飲んでいたらしい・・・）。せっかくなので缶ビールを数本飲んだ。店主の山口さんは昨年ご主人を亡くし、お店を一人で切り盛りしていて、

エッセイ

- ・スタ☆タン!!Z公式キャンペーンガール 高木路子
- ・認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ代表 久保田翠

常連さんたちはそれを気遣いほぼ毎日来て飲んで、と片岡さんが教えてくれた。そんな山口さんとコロナ禍での日常について語り合う。この日はちょうど東京の感染者約4000人という報道されていた。福江島の人口は約4万人ということを見るとんでもないと感じるかもしれない。私が東京の人口は約1400万人なので、と聞かれてもいないのに語る。少しホロ酔いだったかもしれない。私はワクチンを打っていて、ここ一年ほど仕事で東京を出る際必ず抗体検査し、体温計を持ち歩いて毎朝測っているのだが、その先で、地域外から来たことがわかると露骨に嫌な顔をされるのが時々あった(その気持ちもわかります)。なので安心してもらう意味で思わず先走って言ってしまったのだが、山口さんはそういう人はなかった。淡々とお互いの日常を伝え合った。コロナが明けたらまたゆっくり飲みに行きたい。

その日の移動中、片岡さんに五島の歴史を教えてもらい、映画や文化活動についてもじっくり語り合った。それはとても良い時間だった。今回初めてのスタ☆タン!!参加だったが、予想以上に「レッツ」だった。知らなかったスターと出会う喜び。自分の「あたりまえ」が覆る瞬間の連続。そして、繰り返しだが、配信や会場で観た人たちとそれを共有し意見交換できたのが何よりも楽しかった。このご縁を大切にしたいと思う。

最後に、声をかけていただいた久保田さん、レッツの皆さんありがとうございました。スタ☆タン!!で、これからも全国各地のまだ知られていないスターたちに会えることを楽しみにしております!

(※文章内で私の私を含む各人の発言は抜粋です。)



スタ☆タン!! Z公式キャンペンガール 高木路子

「スタ☆タン!! Zの旅はいかがだったでしょうか？」

北は福島から南は沖縄まで、本当に色も形も異なる8種8様のスタ☆タン!!を見ることができました。

「コロナ禍で「日常」を見つめ返す機会が増える中、より日常の表現にフォーカスしたい、スタ☆タン!!の舞台はどこにでも、誰しも現れるはずと思い始動したスタ☆タン!! Zプロジェクトも2年目です。」

今回、スタ☆タン!! パートナーという全国各地の団体によるスタ☆タン!!の開催を中心に行いました。そして、こんな時代だからこそ改めて「生で表現を体感する」こと、「誰かと場を共にし、視点を交換する」ことの圧巻の素晴らしさを感じました。

前回初めて全国のスタ☆タン!!の多様さを目の当たりにし、改めて「レッツなりのスタ☆タン!!を再び浜松でやるうー!」と思い立ち、浜松の旧松菱百貨店跡地で開催した「推し☆たん!!」。レッツを取り巻く浜松の愉快な人々に「あなたの推しを舞台上に上げてください!」と頼み、自分がグッとくる「推しの表現」について想いを語ってもらいました。手探りでドタバタのスタ☆タン!!でしたが、毎日関わって慣れてしまい、なんならちょっと邪険に扱っていた人を舞台という距離感で見ること、とてつもなく胸を打たれたこともとても新鮮でした。

また、今回のスタ☆タン!!を取り組むに当たって、松菱跡地前の路上に立つ1人の女性と出会ったこともとても大きかったです。彼女はいつも路上にたち、段ボールを口の前に掲げながら演説をしたり、歌を歌ったりしていました。道ゆく人はみんなしらっと通り過ぎていくけれど、私は密かにずっと気になっていました。スタ☆タン!!を松菱でやるう、となったとき私は推しに真っ先にその人が浮かんで、直談判に行き、そこで色々な話をしました。そのとき改めて私はどこかで、日常で出会う表現をどこか軽く面白がって見ていたんだ、と気づきました。本人が意識していない部分で発するよさ、一見奇抜な表現、プロと比べて

べたら拙いと思われる表現。しかし彼女にしか出せない圧倒的な「表現したい」という想いがとても刺さってきたとき、私はこれを見んなに見て欲しいと思ったり、と同時にとても難しいことなんだと実感しました。面白がる、まなざすことの暴力性を自覚し、真摯に取り組んでいく必要性を改めて感じました。しかしそこを乗り越え、スタ☆タン!!の場を様々な人と共有することで広がっていく豊かさがあると信じられる。それを胸にこれからも、大切なことは忘れず、活動に取り組んでいこうと思えました。

身近な表現の動画を募集した様なジャンルの審査員たちとクロストークする福島のそこをなんとかスタ☆タン!!。講演会という形のスタ☆タン!!で普段障害者芸術に関わる人々と、絵画造形だけではない些細な日常の表現未満、やスタ☆タン!!の種を紐解く新潟 NASCスタ☆タン!!。表現未満、を体現した様なマッチ売りの少女が火を灯す度老若男女のパフォーマーが現れつつコミも飛び交う、舞台設定全体がスタタンを構成する松山のスタ☆タン!!。「映画祭」と題し、自分がグッとくる島々の表現を映像に収めた五島列島スタ☆タン!!。スナックからお送りする、障害者から路上パフォー

マーまで、色々な意味で社会を包摂していた宮崎スタ☆タン!!。普段見ている公園の風景を眼鏡をかけている視点で見る沖繩は若狭公民館のスタ☆タン!!など。本当にそれぞれにスタ☆タン!!の「場」が発生し、多様な人々、表現が集まりそれを共有、言葉にするというスタ☆タン!!の目指す姿があったなと思います。こんな時代ではありますが、これをさらに広げ、繋げていくことを目指せればと思います。



「表現未満、」とスタ☆タン!!

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 理事長 久保田翠

7年目を迎えたスタ☆タン!!。2020年から大幅なりニューアルをし、より市井の皆さんの表現に注目する趣向となった。スタ☆タン!!はそれまでやはり「舞台上上がる」「選ばれる」という軸は欠かせないものだったように思う。

しかしそういうことに関係なく、人々が肅々と日々行っている表現みたいなそうじゃないモノにも光を当てるといった「表現未満、」の考え方に立ち戻ってみて、オーディションで選ぶ、舞台で発表するといったことを一度やめてみることにした。そして全国のパートナーにゆだね、皆さんが思うスタ☆タン!!を自由に実施していただく形を2020年から始めた。すると本当に自由なスタ☆タン!!がこの2年間でくり広げられた。

従来のスタ☆タン!!をより強力で踏襲した形があるかと思えば、表現が人生そのものかたりだと位置づけるものや、個人の地域愛を具現化したものやら、そのバラエティの広さは、想像以上であった。そして、それぞれパートナーの皆さんの思考をもとにどんどん拡張していくのだと思う。



2021年11月、自分たちのおひざ元である浜松では、「推し☆タン!!」が行われた。これは自分がいいと思ったものを「推す」という形でその表現が披露された。そこには推す人の熱い思いと、その人に押された表現が交差する。しかし面白いことに、推されている方は「これが最高だ!」と自画自賛している場合はほとんどなくて、「本当だったらこんなところで発表しないのだけれど、たまたま推されたから披露しました。」というスタンスで、その軽さや重くない感じが表現の自由さをより際立たせたように思う。

表現は人より優れたもの、技術が高いものがそれだと思われやすいし、自分たちではできない技を見せてくれるものが奨励される。しかし、スタ☆タン!!の醍醐味は、観客にも、推す人にも、表現者にも、だれでもなれるという幅の広さがある。つまり表現するという行為に優越も立場も社会的な背景も関係なくて、気楽なもので、そしてそうした人が多く生まれることが、この社会を豊かに楽しくしていくと考えている。

「表現が特別な人の特別なものではなく、普通の人が日常の中で繰り広げている表現みたいなものに注目し、それを大切にしていく文化を育む」といった「表現未満」の考え方は、既成概念の表現に対してのアプローチである。つまり「これだって表現では?」と問いを投げかけているのである。そして面白いことにスタ☆タン!!は毎年確実に賛同してくれる団体が増えていく。この先、この事業がどこにつながり、何を見せしていくかは主催者である私たちにもわからない。(いい加減ですみません。)

しかしもう少し、この派生を楽しんでいくと、何か新しい姿が見えてくるのではないかと思っている。スタ☆タン!!は思いのほか、社会実験の事業なのである。

スタ☆タン !!Z 全国ツアー 2021 記録集

2022年3月31日 第一刷発行

発行

認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ

静岡県浜松市中区連尺町 314-30

Tel 053-451-1355

Mail lets-arsnova@nifty.com

URL <http://cslets.net>

編集

高木路子

渡部智穂

報告書デザイン

吉田朝麻

写真

吉田朝麻

榎林武俊

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツは、障害や国籍、性差などあらゆる「ちがいを乗り越えて、人間が本来もっている「生きる力」「自分を表現する力」を見つめていく場を提供し、様々な表現活動を実現するための事業を行い、全ての人々が互いに理解し、分かち合い、共生することのできる社会づくりを行う。特に、障害のある人が「自分を表現する力」を身につけ、文化的で豊かな人生を送ることのできる社会的自立と、その一員として参加できる社会の実現を目指し、そして、障害のある人もいきいきと生きていけるまちづくりを行っていく。

〈運営拠点〉

- ・たけし文化センター連尺町
 - ・障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ
 - ・ヘルパー事業所アルス・ノヴァ ULTRA
- [〒430-0939 静岡県浜松市中区連尺町 314-30]

- ・のヴァ公民館
 - ・障害福祉サービス事業所アルス・ノヴァ入野
- [〒432-8061 静岡県浜松市西区入野町 9156-4]
- ・放課後等デイサービス アルス・ノヴァ
- [〒432-8061 静岡県浜松市西区入野町 9156-1]

主催 | 文化庁、認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ

助成 | 公益財団法人 福武財団

支援 | アーツカウンシルしずおか

協力団体 | アーツカウンシルみやぎ、NPO 法人地域サポートわかさ、NPO 法人 BaRaKa、そこをなんとか、新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC ぶっとびアート

Web

<http://cslets.net/statan>



Facebook

<https://www.facebook.com/234789323564039/>

YouTube

https://www.youtube.com/channel/Uck2TIBBIQ3N56yB_PgUWXEA



公益財団法人 福武財団



アーツカウンシルしずおかとは

「アーツカウンシルしずおか」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化芸術を結び付け、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

「～雑多な音楽の祭典～スタ☆タン!!」とは!?

日常の中でその人が大切にしている表現、表現っていいかわからないけれど、なんかグッとくる「表現」みたいなもの、それをレッツは「表現未満」と命名し広めています。そんな「表現未満」なパフォーマンスを全国から公募し、舞台にて真剣に審査する音楽イベントがスタ☆タン!!なのです!

スタ☆タン!!は全国から公募も行っています!
お家で家族と、学校で友達と、身の回りの気になる
あの人と…キミもスタ☆タン!!やってみよー!

詳しくはこちら!



<http://cslets.net/statan/kit>



2020年からどこでも誰でも開催できるスタ☆タン!!としてスタートしたのが「スタ☆タン!!Z」プロジェクトです!
舞台は浜松から全国、全世界のあなたの日常へ。あなたの家で家族と、学校で同級生と、職場で同僚と、はたまた気になるあの人…見慣れた人やものが、全然違うものに見えるかもしれません…!